

ドキュメント保有

ドキュメント保有とは

OnBaseドキュメント保有モジュールは、ある特定の時間の経過やイベントの発生が起点となり、あらかじめ定義されたビジネスルールにより、保存されたドキュメントの保有および廃棄を管理します。権限のあるユーザーはドキュメントタイプまたはドキュメントタイプグループ内にあるドキュメントを設定し、自動でOnBaseドキュメントレポジトリから取り除きおよび/または破壊します。

どのように機能するか

スタティック保有では、ルールに関連づけられたドキュメントは、ドキュメントの作成またはデータプロセスに基づいて、あらかじめ定義された保有期間を満たすと、自動的に削除にマークされます。例えば、権限のあるユーザーは毎日の生産レポートを作成日から10日後に自動的にパージするように指定できます。

ダイナミック保有はスタティック保有を拡張した機能で、ドキュメントをOnBase Workflowでまわしたり、外部プログラムを使用してドキュメントにアクセスします。OnBaseの機能を最大限に利用して、管理者はイベントに基づいた保有プロセスを開始したり、複雑な評価プロセスを定義したり、ドキュメントを一連のライフサイクルの各段階にまわしたりすることができます。例えば、従業員が会社を辞めて、給料支払システムに入力されている失効日が来ると、3年間の保有期間を開始できます。

管理者は保有プロセスをスケジュールし、削除にマークされたドキュメントを定期的にパージします。管理者はファイルを削除するときにキーワードを保有するかどうかのオプションが選択できます。ディスクスクラブ機能はドキュメントを完全に削除したいときに実行し、ディスク管理ユーティリティを使用してファイルが検索されないようにする機能です。

権限のあるユーザーは、法務担当部署が対応する必要があるあったり、保持する必要がある特定のドキュメントをドキュメント保有プロセスから除外し、パージプロセスを実行しないように指定できます。

誰が利用できるか

企業および法律の規定に準拠しようとする企業/団体は、記録が適切に保護され、保有され、抹消されるように確認する必要があります。要件に対処するために保有ソリューションを整えることにより、企業/団体は人件費、時間、コストを削減でき、ビジネスに不可欠なプロセスにより集中することができます。

技術的特長

- 時間およびイベントに基づいた保有プロセスを使用してドキュメントを管理できる
- 権限のあるユーザーは法律の規定に対処するのに記録を保持できる
- 保有プロセスは期限切れのファイルとキーワードまたはファイルのみを削除するように設定できる
- 管理者はファイルが再生されないように、ディスクシステムをスクラブするオプションがある

ビジネス利点

- ドキュメントを検索し、取り除く体系化した方針を確立することによりコンプライアンス問題に対処できる
- ドキュメントを削除するための一貫したプロセスを提供し保存場所、時間、コストを削減する
- ビジネスに必要なドキュメントを定期的にパージすることにより、冗長コンテンツについて法的行為につながる可能性を削減する

システム要件

- OnBaseクライアントライセンス
- ダイナミック保有を使用する場合はワークフローライセンスが必要
- サーバオペレーティングシステム:
Windows NT 4/2000 Server
- SQL Server 7/2000, Oracle 8+, Sybase SQL Server 11.5, Sybase SQL Anywhere 5.5.04/7.0.1